

小杉山円満寺 令和四年青葉まつり号

寺だより

新庄市五日町五九一四

TEL 二二一〇四三三

FAX 三三二一〇一六六

発行人：山尾瑛紀

芽生えの季節

境内にイチヨウの木があります。

四月半ばまでは冬の枝のままのようでした。それが、枝にちよんちよんと小さな小さな点々が見え始めました。次の日には、それらが少し大きくなりました。四、五日経つと、黄緑色の点々になりました。

五月になり、イチヨウの木はちよつと大きな黄緑色の点々に覆われています。



本堂前のカンゾウの芽もしかり。ちつちやな尖った芽がたくさん、つんつんと顔を出していました。日に日に芽が伸びて、今では三十センチぐらいの丈になりました。アジサイもモミジもツツジも、一斉に芽吹き季節です。鯉のぼりが若葉に映えます。

青葉まつり 五月二十二日(日)



青葉まつりとは、真言宗の宗祖・弘法大師のご誕生をお祝いする行事です。

弘法大師のご生誕は宝亀5年(774年)六月十五日です。弘法大師がお生まれになった六月は緑が美しい季節ですので、このお祝いを「青葉まつり」と称しています。当円満寺では、五月の末に執り行っております。

祭壇の正面に弘法大師の御影を飾り、生誕を祝う法要を行います。

法要の際には勤行式に従ってご詠歌やお経をお唱えしますが、次のようなご宝号も唱えます。

ご宝号 南無大師遍照金剛

「ご宝号」とは、仏さまや高僧のお名前を、敬意を込めてお唱えするものです。ご宝号をお唱えすることによって、多くの功德をいただくことができます。

数あるご宝号の中でも、私たちが特に大切にお唱えしているのが、宗祖弘法大師空海のご宝号「南無大師遍照金剛」です。

「南無」という言葉は、インドの言葉「ナマス」の音写で、信じ敬うことをいい、「帰命 きみよう」「敬礼 きょうらい」などと訳されます。

「大師」は朝廷から高僧に対して与えられるおくりなで、空海は延喜二十一年(921)に醍醐天皇より「弘法大師」をいただきました。「大師は弘法に取られ」という言葉があるように、弘法大師はとて有名です。

「遍照金剛」は空海が、師の恵果阿闍梨よりいただいた「密号」という名前です。

遍照は、仏さまの光が陰・日向分け隔てなくすべてを照らし、見守ってくださいることを意味します。

金剛とは、私たちの煩惱を打ち砕くダイヤモンド

ンドのように堅い仏さまの智慧を意味します。

言葉の意味を知ってお唱えすると、いつそ
う気持ちが進められます。

弘法大師の

持ち物

青葉まつりで飾られる
御影は、前のページのお姿
です。

持っておられるものは

二つ、右手に五鈷杵、左手

には念珠ねんじゆです。



五鈷杵は法具で、密教では金剛杵こんごうしよといい、金剛つまりダイヤモンドのように堅固な仏さまの智慧の象徴です。

また「鈷こ」とは、昔インドで護身用にされて
いた武器を指す言葉で、杵から伸びている爪の
ようになつたものの本数で呼ばれ、独鈷杵、三
鈷杵、五鈷杵があります。

お大師さまの手の中にあるのは、五鈷杵。
お大師さまが持つからには何か意味があるの
では？

五鈷杵は金剛界、胎藏界両部の曼荼羅の理と
智、すべての徳を象徴している重要な法具です。
五鈷杵を持つ手は、手首を返すような変わった
持ち方をしていきます。不堅不横ふじゆふおうといい、自分

の悟りと衆生の救済を意味します。

もう一方の念珠は、数珠ともいわれ、お
もいの珠、数える珠ともいいます。

僧侶の行法には欠かせぬ法具で、数珠に
ついて書いてある経典には、肌身離さず持
つようにとあります。

さて、お大師さまはどのような想いでこ
の二つの法具を持ち物とされたのでしょうか。

今日の法語

「悠々」

冬を乗り越え、草花は芽生えの季節を迎
えています。しかし、冬の間、暖かい太陽
の光もなく暗く厳しい寒さだけだったら、
春に花は咲くでしょうか。お大師さまは、

「冬天に暖景無くんば即ち梅麦何を以て
か華を生ぜん」(性霊集)

と仰いました。私たち人間も、常に厳しく
気を張っているだけでは行き詰まってしま
います。ひたむきな努力や物事を突き詰め
ることはとても立派なことですが、たまに
は肩の力を抜いき、悠々と心穏やかに過ご
してみませんか。

本山智積院季刊誌よ

り

境内スポット

びつくりしまし
た!

枝に白い花が!
桜の花です!

昨年こぞの秋、桜の
木を切りました。
太い丸太は製材用
に取り分けました
が、残りの細いも
のは集めて重ねて
おきました。

先日、それらの
枝を見てみたら、

なんと花を咲かせていたのです。
なんとすばらしい生命力でしょう。命の不思議です。



開山四百年記念

二〇二四年・

令和六年

